

中丸地区 村政懇談会

日 時：平成 27 年 8 月 28 日（金） 午後 7 時から 9 時まで

場 所：中丸コミュニティセンター 会議室

出席者：村執行部（村長，副村長，教育長，村長公室長，総務部長，村民生活部長，福祉部長，建設農政部長，教育次長，議会事務局長） 計 10 名

事務局（課長，課長補佐，係長，自治推進課職員 3 名） 計 6 名

自治会長（押延区，須和間区，舟石川中丸区，原子力機構長堀区，緑ヶ丘区，南台区，フローレスタ須和間区） 計 7 名

自治会連合会（事務員 2 名） 計 2 名

参加者：押延区 9 名，須和間区 6 名，舟石川中丸区 10 名，原子力機構長堀区 1 名，緑ヶ丘区 8 名，南台区 10 名，フローレスタ須和間区 4 名，その他 46 名

計 94 名

司会進行：舟石川中丸区福自治会長

総計 110 名

《次第》

1. 開会
2. 出席者紹介
3. 地区自治会長あいさつ
4. 村長あいさつ並びに村政に関する説明
5. 平成 26 年度要望に関する進捗状況に関する説明
6. 地区自治会からの事前質問・要望に関する回答・質疑応答
7. 自由質問
8. 閉会

《記録》

【6. 地区自治会からの事前質問・要望に関する回答・質疑応答】

須和間区住民：通学路の件について，車が少なかった時代に作った道路は狭くなっているのかと思うが，中丸小学校は児童も多いので早急に対応してほしい。4m以上の道路の両側に 1.5mの歩道を要望する。また，8時から8時半まで車両通行止めもお願いしたい。

建設農政部長：拡幅は用地買収が必要となるので，まずは地元の方と相談しながら，できることをやっていきたい。通行止めについても警察と協議しているので，皆さんと一緒に考えながら進めていきたい。

押延区住民：中丸小の南側の道の幅が狭く危険であり通学路には不向きとのことだが，普段はどうなのか。通学路にもしないということであれば子どもたちが簡単には降りれないようにするべきではないか。

教育次長：階段の下はロープを張っており，学校でも入らないように指導している。

中丸地区 村政懇談会

押延区住民：ロープを張るのは結構だが、実際入っていないかを誰がチェックするのか、子どもたちが入れないように対策すべきではないか。

教育次長：こういった話が出たことを学校にも伝え、学校と相談しながらできることを模索する。

南台区自治会：自治会役員の負担を軽減するとのことだが、私が若い頃は 65 歳過ぎたら高齢者だったが、今はぴんぴんしている。村にお願いしたいのは他の地区の団体の刺激になるような情報を入れてもらって、それぞれの団体がブラッシュアップできればと思う。

司会：私も感じているのだが、色々な地区で参考になることをしているので、そういった情報を収集し、活用するのは良いことなので、村が知らせることが重要だと思う。

村民生活部長：村内の自治会で行われているすばらしい活動は自治会連合会等で報告会を行ってもらい、情報共有してもらいたい。村外の活動で良いものがあれば自治推進課でお知らせしていきたい。

南台区住民：村内路線バスルートについて、1日に14便も周ってもらえるということで、車がない人は助かる。しかし、4月以降は利用状況によってはやめてしまうということで、事前に住民も村でも宣伝しないと行かない。必要性がないと判断されて廃止されてしまうと、将来車が運転できなくなった時に困ってしまう。どのように継続できるようにするか、我々も考えなければならないが村でもPRしてもらいたい。

村長公室長：村でも維持していきたいと考えているので、PRに努めてきた。4月からの実証実験は4路線で始めた。駅西側2路線、駅東側2路線だったが、駅西側の2路線の利用状況が非常に悪いということで、9月を持って廃止となった。この2路線は原研道路から笠松運動公園を周って船場へ戻ってくるものと、駅西からお魚センターへ向かうものだったが、見込みよりも大幅に利用者が少なかったことから廃止となった。村のほうでも駅前や笠松運動公園でホーリーホックの試合がある時にタイヤアップをするなどしてPRに努めてきたが、結果として利用状況はよろしくなかった。10月以降新たに、フローレスタ須和間、南台、緑ヶ丘の循環路線と、もう一本駅東から東海高校を経て、フローレスタ須和間、南台、緑ヶ丘を經由して、押延の十文字を旧動燃の方に曲がって、ジョイフル本田へ向かう路線も、本数は少ないが実証実験として行う。村としても利用者を増やしたいので、こういったPRを行うか考えているが、村だけでは限界があるので、地域からも情報を提供していただいて利用促進を図っていただきたい。どうしても民間交通事業者なので、採算性というものがあり、赤字になれば、赤字補填ということで東海村の税金も投入することになる。投入額はなるべく抑えたい。そういった事情もあるのでご理解いただ

中丸地区 村政懇談会

きたい。

【7. 自由質問】

舟石川中丸区住民：中央公民館の前の森に歴史と未来の交流館建設予定地という看板が建っている。ここにある森の樹木はすべて伐採するのか。この森には東海村「ふるさとの自然・文化」登録文化財に指定されている樹木が道路側からも見えるところに立っている。この場所の歴史の生き証人としてこの樹木を少しでも残してほしい。

教育次長：この場所は用地の購入が終わり、平成30年度に「(仮称)歴史と未来の交流館」をつくらうとしている。先程言われたとおり貴重な樹木もあるので、全て伐採という考えは無く、今後の設計段階において、どこをどのように残していくかを検討していく。

舟石川中丸区住民：道路からチラチラ森を見ると、白いテープが樹木に巻いてあり、あの樹は伐られてしまうのかなと考えてしまう。大きなクヌギやヤマザクラもあるのでぜひ歴史の生き証人として残してほしい。

教育長：次長が答えたとおり、昨年、生涯学習課でどんな樹木があるのか印をつけた。ナラやヤマザクラもあり、これまでの樹木を残すという考えで進めている。まずは残すことを前提に、残した上で建物を建てようとしている。なぜなら、あそこは歴史だけではなく、子どもたちが自然観察や理科実験をして自然体験、社会体験をできる場所にしたいという考えがあるからである。それと、お母さん方の乳母車に乗った乳幼児からお年寄りまで、皆が歩ける遊歩道も造ろうと考えているので、できるだけ自然は残していく。

緑ヶ丘区住民：教育長に考えていただきたいお願いがある。今週はじめにNHKで国会審議をやっていた。参議院の安全保障委員会の中で、新党改革の荒井広幸さんが下村文部科学大臣に言ったことが心に響いたので、村にもぜひやってもらいたいと思い質問する。今日の案内にもあるが、今後は超高齢化社会になるのはみんな知っている。それを支える社会の仕組みとして、まず自助、自分で努力して健康を維持して楽しい老後を過ごすというもの。そして公助、とにかくお金をもらって余生を生きる。最後に共助がある。この共助の定義はそこそこ理解しているが、どうやって共助を実施していくか、共助のあり方がますます難しくなってくる。荒井議員が言うには、中学生、高校生で介護ヘルパー2級を必ず取得させてはどうかという質問だった。高校となると国や県の管轄となるが、中学校は村立なので、川崎教育長の権限でできるはずだ。中学3年生は受験もあるので、2年生で誰もがヘルパー2級を取得するカリキュラムを組んではどうかというのが荒井議員の言っていた主旨である。

教育長：福祉教育に関しては、各小学校4年生くらいから、アイマスクや車イスを

中丸地区 村政懇談会

使った体験活動を行っている。中学校でも福祉に関する総合的な学習を行っている。村長にも話しているが、社会の中にはごみ問題、福祉問題、環境問題、自治会・地域活動もある。小学校高学年から中学生は東海村市民課というような授業をやってみたほうが良いのではと考えている。その活動の中で、介護ヘルパー2級の資格を取りたいと思う子も出てくるかもしれない。一斉に取得するようにするのは、今後考えていかなければならないが、小学校高学年から中学生が社会に目を向けて、社会の中で自分がどれだけ貢献できるかを考えるような授業が必要だと言うことは十分認識しているし、取り組んでいきたい。ヘルパー2級と言われても、すぐに一斉にやりますという訳にはいかないが、子ども達にそういう意識を持たせる授業を体験的に行っていくことは前向きに進めていく。

緑ヶ丘区住民：教育長や村だけではできないことなので、まずは有識者を集めて、できるできないを決める会議をいつまでに開くか等を示してほしい。検討しませんでした弱い。

教育長：ヘルパー2級の資格を全員が取るという授業は簡単にはできない。ただ、これから市民教育ということで、地域のごみ問題や環境問題、福祉の問題や18歳の選挙権など地域に目を向けた授業は具体的にやっていく。

緑ヶ丘区住民：下村大臣は機関を通し、会合を持ってやる方向でいくと言っていたので、できないことは無いだろう。できないのならなぜできないのか、できるようにするにはどうすればいいのかまで回答してもらいたい。

教育長：言いたことは分かる。とにかく福祉に関する授業は前向きに取り組んでいく。

押延区住民：教育長へ質問と意見がある。村長から、村内の高校生は村への愛着心が強いというアンケート結果が出たと言う話を聞いて大変嬉しく思う。質問は東海村のいじめについて。東海村のいじめ防止基本方針が平成26年2月にできた。その後、各小中学校でも学校のいじめ方針ができたということで、去年もいじめがなく良いと言っていたが、本当はないのか。例えば、今は親御さん、地域、学校でいじめ防止に取り組んでいる。しかし、子どもは個性があり、どういった志向性があるのか、無志向性なのか、アンテナの感度はどれくらいあれば受け取れるのか細やかにやっていかなければならない。学校の先生も色々な仕事があり大変だと思うが、いじめは学校以外にもある。例えば東海村の役場にはないですか。こういったことは、基本的に小さい時からの気持ちである。だから、いじめとケンカが区別できないで騒いでる方もいるが、今は周りのお母さん方が一生懸命いじめについて教えている。これからは子どもたちだけで、先生といじめとはどういうことか、事例を持ってきてこういう時はどう考えるかを考えることに時間を使うことが大事。そういう風に小さい頃らいじめを理解していけば、大人になってもそう簡単にはいじめなんてできない。それから、方針を作ったのであればPDCAサイクルでアクションを行っ

中丸地区 村政懇談会

ていくべき。いじめに対して、どういう組織で、どのように学校が行動するか、そういうところを学校と教育委員会で決めていくべきである。やっぱりいじめというものを自分自身で考えさせることが大事であるので、そういう時間をとってもらいたい

教育長：非常に大事な問題である。8月22日にPTAの指導者研修があった。保護者に対していじめについて話したことを読んでみたいと思う。いじめ問題は本当に難しい。小さい子は集団生活をしているとすぐに仲間にちょっかいを出す。異文化の状態なので、それが良いことなのか、悪いことなのか判断がつかない。そういう時先生は、双方の話を聞き、折り合いをつける。叩いたからといってすぐに謝りなさいとは言わない。すぐに謝りなさいと指導すると、大きくなっても謝れば良いとなってしまう。状態や言い分を聞きながら、体験を通して学ばせていく。ちょっかいを出すことも言い合いも、大切な教育活動。小中学校になるとここが難しくなるので、発達段階を踏まえた最適な教育に取り組んで行きたい。現在、東海村の小中学校が一緒になって、いじめに対するフォーラムということで、事例を踏まえながら子どもたちで自助努力というか支え合いをする活動をしている。いじめは無いとは言わない。いじめは必ずある。その中でどのようにすれば良いか考えていく。学校も教育委員会もアンテナを高く伸ばして、複数の目で見て子ども達の状況をキャッチしていく。少しでも相手を傷付け、嫌な思いをさせたらいじめなので、何かあればどんどん出してもらい対応していくつもりなので、地域の方も何か変だと思ったら、すぐに学校、教育委員会へ連絡いただきたい。

舟中丸区住民：本日村政懇談会ということで、村の職員と直接話ができる良い機会だと思う。しかし、議員さんと住民が討論を行う機会がない。選挙で我々の選んだ方たちが議会では話しているが、直接意見を言える場ないので、そういう機会があったらいいのではないかと提案いたします。

議会事務局長：議員との懇談会とのことだが、今年から議員報告会というものを始めた。5月17日には中丸コミセン、19日には舟石川コミセンで開催させてもらった。今後、11月8日に真崎コミセン、11月11日には石神コミセンで予定しているのでぜひ参加してもらいたい。

村長：なぜ広まっていないのか。

議会事務局長：PRが足りなかったかもしれない。

舟中丸区住民：この前妻がジョギング中の村長を見たが、挨拶もしないで行ってしまったと言っていた。皆村長の顔を知っているので挨拶したほうが良い。

村長：大変失礼した。どんなに疲れて走っていても挨拶する。

舟石川中丸区住民：要望なのだが、防犯上の観点から駐在所を駅前に持って来てほしい。

中丸地区 村政懇談会

村民生活部長：10年来ひたちなか署に要望はしている。これまでは、県の予算が回らず、整備計画が進んでいなかった。犯罪件数は県南が多く、交番整備は県南・県西の方が早かった。この前も要望に行って、設備を整える部署の課長も東海村を訪れた。ただし、駅前だと駅東から駅西へ向かうのに体は行けるが、車では行きづらい。現在の場所であれば、駅東へも駅西へも同じ時間で行ける、という考えを警察は持っている。現在の交番がある場所は、これまで東海中学校の先生の車が停まっていたが、東海中学校が新しくなり駐車場ができたので、空き地ができる。警察署は、新しい交番の場所としてその辺りが良いというような考えも持っているようだが、村としては駅西の駐輪場を、交番のためならいつでも差し出すということをお願いしている。

舟中丸区住民：消防署前の区画整理地内で道路工事をしている。9月に入り二学期が始まると思うのだが、小学校の子どもが非常に多くなり、大体40名から50名くらい登下校する。ちょうど下校時に道路工事のダンプが頻繁に土を運んだり往復している。非常に道路が狭いので、その時間帯だけでも仕事を休めてもらいたい。もう一点、去年も言ったのだが、中央公民館のパソコン講座があるのだが、パソコンが6台しかなく、年に何回もあるのだが、何回申しこんでも当たらない。もう少しパソコンを増やしてもらえないか。

建設農政部長：区画整理地内において、下校時にダンプが通り、危ないということで、場所の特定をした上で、学校とも相談した上で、事業者のできる範囲で配慮したい。

教育次長：パソコンの台数が少なく、講座が受講できないということだが、教室となると民間との関わりもあるので、うまく調整したい。

司会：パソコン教室はシルバーでもやっていると思うので、そちらの方も検討してほしい。

須和間区住民：須和間の東海プレイパークという公園がある。フローレスタの子どもたちもたくさん来て、子どもの声が聞こえるというのは非常に良いものである。この前、目の見えない方々が盲導犬を連れて訪れたが、道路が狭くてバスが公園まで入って来られなかった。そのため下の道路からその目の見えない方々がずっと歩いてきた。できれば拡幅を行ってほしい。

建設農政部長：須和間区の方からも要望が挙がっている箇所だと思うので、一緒に考えながら進めていきたい。

南台区住民：先ず、バスの増便についてお礼申し上げる。住民を挙げて取り組んでいきたい。今後南台の行事の賞品はバス回数券にしたいと考えている。ところで、気付いた点があるので話をする。これは特定の事業者を批判するものではない。先日、私は村内のある事業者から事業所視察の案内を受けた。平日は仕事をしている

中丸地区 村政懇談会

ので、参加できないと回答した。しかし、何とか参加してほしいと別途連絡があったので、会社を休んで視察することになった。その時にコメントを出してくれと言われたので、少しだけコメントを出した。その事業者は世界で冠たる事業を行っている事業者だが、構内が非常に草がぼうぼうでまずいなと思った。この事業者は過去に放射能漏れを起こし、その後の対策を見せながら、過去の事件をお詫びするという行事であったが、草がぼうぼうで不審者が入っても分からない、同等の設備を持つ世界の研究機関の基準を満たさないだろうと感じた。今まで指摘は無かったのかと尋ねたが、そのようなコメントは過去無かったとのことだった。やはり、原子力事業所を持っている村のメンバーが見る目、そういうものが必要である。事業者を適切に指導し、彼らの背中を押してやる仕組みと目を持っていただきたいと切に願います。

村民生活部長：防災原子力安全課が報告を受けたり、指導をしている。東海村もそうだが、構内の美化などにお金を割けていない状況がある。しかし、一般の方が入った時の安心感というものは大事である。現地にも定期的に訪れているので、負担の無い程度に見た目に気を使うということも、安心感を与えるという点で大事だと指導したいと思う。

フローレスタ須和間区住民：現在、フローレスタ須和間から南台にかけて、ひたちなか市へ向かって新たな道路が建設されているが、大変長く工事に時間がかかっている。国道6号線までのアクセスが良くなるということで住民の関心が高いが、現在どういった状況なのかを把握することが、我々もなかなか難しかった。自治会長であれば答えていただけるということで、今年になってようやく状況がわかった。ひたちなか市も絡んでおり、情報の収集が難しいので、周辺の市町村とも連携して、情報共有をお願いしたい。さらに、今後通学路になることも予想され、交通量も非常に多くなると思うので安全対策も考えていただきたい。

建設農政部：道路の工事が止まっているのは、ちょうど東海村とひたちなか市との境である。東海村側では、フローレスタ須和間の開発行為の中で、鈴縫工業で工事を行い、ほとんど完成している状況だと思う。検査の完了を待って、早いうちに共用開始ができると考えている。ひたちなか市の状況は、用地交渉で一名が難航している。我々東海村もひたちなか市と合同で協議をしている。用地交渉が解決できれば全線開通すると思われるが、もうしばらく待っていただきたい。開通すれば、フローレスタ須和間を抜けて南台に向かう車も少なくなり、子どもたちがより安全に通学できるようになると思うので、解決に向けて努力していく。

教育次長：通学路の件について、フローレスタ須和間の歩道は、幅員3m50cmあり、車道と歩道がしっかり分離している。しかし、直線の道路で安全だと思うが、交通量も多くなると思われるので、安全性を優先しながら、どういったルートが良いかは今後学校と協議しながら検討していきたい。

中丸地区 村政懇談会

村民生活部長：情報提供については、自治会長になったから教えるということはないので、担当課にお問い合わせいただければ、教えられる情報は全て提供する。

押延区住民：みちづくり検討委員会があり、そこであったこの話は押延溜池の森整備という観点になると思う。川崎産業倉庫から大山下へ至るあじろ道というのがあ
る。昔は通れたのだが、現在は村道3100号でありながら道が中断しており利用できない。しかしながら、散歩、ウォーキング、ハイキングコースとしておおいに活用できる道である。高齢になると、散歩等が健康維持にも大事だと思う、要望を提出するので検討してもらいたい。

建設農政部：何年か前にも要望を頂いたこともある。すごいがさ藪になっており人も通れないような状況。車が通れるようにするのは難しいと思うが、人が通れるような工夫はできるかもしれない。防犯上の観点からも色々と検討の余地はあるが、真摯に受け止め一緒に考えていければと思う。

以上